

ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

1. 学校名
ドバイ日本人学校
2. テーマ
すべての子どもの学びを保障するために (対面もオンラインも、それらが混在する場合も対応できる教育環境の構築)
3. 取組の概要 (※報告書の内容を要約し、200～400字程度で記載してください。)
<p>2020年3月に現地政府当局より学校閉鎖の指示が出た。そのため、4月からオンライン授業を実施した。より良いオンライン授業を目指し、保護者アンケートを繰り返し行い、オンライン授業改善に取り組んだ。そこで目標としたことが</p> <p>①非常時に途切れない「学びの保障」を行うため、マニュアル・規則を整える。非常時に必要な機器を準備する。</p> <p>②オンライン授業を行う際のインターフェイスを充実させ、より実体感のある学びを実現する。</p> <p>③質の高い安定した通信環境でのオンライン授業をめざす。</p> <p>④ICTを活用したわかりやすい授業の推進を行う。</p> <p>という4点である。</p> <p>9月以降、分散登校、全面登校になるも、感染者が出て、「明日から登校見合わせ。全面オンライン授業。」という緊急事態が3回あった。その場合も大きな混乱なくオンライン授業を行い、学びの保障を継続できた。</p>
4. 取組の背景・目的 (※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)
<p>2020年3月に現地政府当局より学校閉鎖の指示が出た。4月からの学校の再開の見込みが無いため、4月から日本国内待機教員も含めて、全教員によるオンライン授業を実施することを決定した。オンライン授業を実施するといっても、全職員初めての経験で戸惑う事ばかりであった。とにかく4月当初から teams でオンライン授業で新学期を開始すると決定し、職員会議や打ち合わせを teams を使って繰り返すことで、職員のスキルを高めていった。</p> <p>オンライン授業が軌道に乗ってくると、児童生徒がいたずらでオンライン授業を邪魔してしまうという問題も出始め、ネットモラルやオンライン授業の約束事の指導も行った。長時間情報端末に向かう事への心配もあり、保護者アンケートで子どもたちの様子や保護者の心配・願いの把握に努め、オンラインの保健室を開き健康相談を行ったり、目の体操(ストレッチ)の紹介をしたりした。</p> <p>保護者アンケートでは、いち早くオンライン授業を開始し児童生徒の学習を保障したことに、よい評価を頂いた。そして、よりよいオンライン授業をめざして、保護者からの要望、指摘を授業改善に役立てていった。</p> <p>オンライン授業を長期に渡り継続していく中で、初めのころは物珍しさもあり集中できていた児童生徒も、時が経つにつれ、モニターの中の授業(先生)に集中できない事象が散見されるようになった。</p> <p>そこで、非常時に途切れないだけでなく、より質の高いオンライン授業、マルチメディアを駆使し、動きのある授業、視覚に訴えた授業、アクティブに学ぶ授業を目指すことにした。</p>

そこで目標としたことが

- ①非常時に途切れない「学びの保障」を行うため、マニュアル・規則を整える。非常時に必要な機器を準備する。
 - ②オンライン授業を行う際のインターフェイスを充実させ、より実体感のある学びを実現する。
 - ③質の高い安定した通信環境でのオンライン授業をめざす。
 - ④ICTを活用したわかりやすい授業の推進を行う。
- という4点である。

5. 取組の実施日程

日程	取組内容
4月	<ul style="list-style-type: none">・3月中に現地政府の指示により学校閉鎖を始める。4月以降も閉鎖措置が継続されるため、3月中からオンライン授業を行うことを決定。準備を進めた。この間、ロックダウンで教師も出勤できない状況。どうしても出勤が必要な場合はWEB上で外出許可を取って出勤。teamsで、オンライン授業を進めることを決定。teamsは、ファイルの共有やONE NOTE(提出物の回収、返却)などの点で優れていると判断した。Zoomは、セキュリティの問題が取り上げられていた。3/25 teamsの使用開始。3/26 ALL STUFF MEETING 3/30 ディスタンスラーニングの手引き発行(資料1)・オンライン職員会議 ドバイの日本人学校職員と赴任予定の日本国内待機職員がteamsで職員会議を行う。・オンライン中学部会議 ドバイの日本人学校職員と赴任予定の日本国内待機職員がteamsで会議を行う。・職員同士の連絡にLINEを使用することが多くあったので、組織的な連絡活用のためにLINE WORKSの利用を始める。・teamsでオンライン授業をする際、児童生徒の端末からの見え方、児童生徒のアカウントからの操作方法等確認するために、サンプルの児童アカウントを用意。教師がサンプルアカウントからアクセスし確認を行えるようにした。・オンライン職員会議・「宿題アップロードの方法」「チームとノートブックの作成方法」のビデオを作成。教員間で共有。・保護者に対し、新派遣教員の紹介、学級担任の発表をメール配信。・ALL STAFF MEETING 文部科学省派遣教員と現地スタッフの全員によるオンライン会議。・オンライン始業式、オンライン授業開始(当面5時間授業)・オンライン職員朝礼(朝の打合せ)を毎朝行う・オンライン入学式(資料2, 3)・オンライン研修会議・オンライン全校児童生徒集会(資料4)・全校配信メール送信テストオンライン新派遣教員披露式オンライン学級懇談会 オンライン校内研修オンライン学級懇談会

5月	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート実施(1回目)Microsoft Forms を使ってアンケートを取る。集計結果が即分析しやすい結果として得られた。(資料5)アンケートには「いつもありがとうございます。学校に行けないことは心から残念ですが、先生方にはたくさん努力、配慮して頂いていることを感じています。これからも、どうぞ宜しくお願い致します。」等、感謝の声が多く寄せられた。 ・児童生徒が登校できないので、職員が教科書、ドリル等の教材を配布して回る。 「オンライン保健室」設置 学校看護師が、teams 内に子どもたちの健康相談に対応するオンライン保健室を立ち上げる。 ・DHA(Dubai Health Authority)からの情報を UP し、目の疲れに効く「アイ・ストレッチ」の動画を始めとする情報を掲載する。 ・職員全員の出勤は認められないが、一部の出勤が認められるようになったので、勤務(出勤)ローテーションを作成。 ・ラマダン日課開始 ・オンライン学校運営委員会 ・オンライン職員会議 ・オンライン個別懇談会 teams の児童生徒のアカウントで保護者とチャット機能の中のビデオ通話で懇談を行う。 ・ミナレ学習(総合的な学習の時間)オリエンテーション ・オンライン個別懇談会、「Distance-learning の手引き(第2版)」配布(資料6) ・G4 ネットモラル学習(資料13) ・オンライン授業が進むにつれて、子どもたちが勝手にテレビ会議を開く、オンライン授業中に友達をミュートにする、削除するという問題点が出てきた。そこで、生徒指導担当教員がオンライン全校集会でネットモラル指導を行い、その後各クラスの会議室で担任が指導を行った。 また、保護者から、PTA や保護者同士の連絡や会議に学校の teams を使わせて欲しいという要望が寄せられたが、学校の teams は学校教育に限定することを決定し連絡した。 ・保護者アンケート実施(2回目) Microsoft Forms を使ってアンケートを取る。集計結果が即分析しやすい結果として得られた。(資料7)アンケートでは、「技術的限界が無いようでしたらば、なるべく授業中は、生徒側のカメラをオンにした方が、より緊張感が生まれ良いのではないかと思います。」という、授業改善に向けた要望や、「日記や漢字や計算の宿題は提出するかは別にして、毎日出していただけると子どもが取り組みやすくありがたいです。」学習課題の量に対する要望も出て、さらなるオンライン授業の内容の充実を期待されていると感じた。 ・オンライン校内研修 ・G9 による「Let's wash your hands!!」オンライン配信(資料8) ・児童の自主的活動。感染防止のために手洗いを呼びかけようと中学部3年生の児童が発案。自分たちがそれぞれ歌に合わせて撮った動画を、自分たちで合成、編集し一つの動画にまとめた。Microsoft Stream で公開。Microsoft Stream は公開・複製が制限されているため学校として使い勝手が良い。 ・G5~G9 の児童・生徒を対象に、オンラインでキャリア・レクチャー(資料9) <ul style="list-style-type: none"> Atlantis The Palm NOBU 寿司カウンターヘッドシェフ ブルガリホテル レストラン宝石 マネージャー兼ヘッドシェフ 総領事館 領事
----	---

	<p>元ガートナー勤務 日立製作所 勤務 KOBAYA カフェプロデュース</p> <p>講師の先生方は、それぞれの自宅やオフィスから、携帯端末やパソコンからオンラインで講義をして頂いた。1 回目 9:00～9:45 2 回目 9:55～10:35 の 2 回講義を行って頂き、子どもたちは、それぞれ内容を選択し 2 回受講した。</p> <p>・オンライン運営委員会</p> <p>6月</p> <p>・KHDA(ドバイの教育局)が本校のオンライン授業の様子を視察するため、授業にログインし、オンライン授業参観</p> <p>・オンライン全校児童集会</p> <p>・オンライン職員会議</p> <p>・中学部学年集会</p> <p>・オンライン校内研修</p> <p>・G9 による「くればーらじお」オンライン配信開始(資料10)</p> <p>生徒の自主的活動。先生にインタビューしたり。天気予報や占いの紹介、音楽を流したりの番組を昼休みにオンラインで放送した。G9の生徒が役割分担し、それぞれ自分の家の端末からデバイスを操作し協力して番組を進行した。</p> <p>・G3 岩手県北上市とオンライン。養蚕農家のゲストティーチング。蚕の生態や育成方法のレクチャー。岩手日報新聞社取材</p> <p>・G3 岩手県北上市とオンライン。養蚕農家のゲストティーチング。蚕の生態や育成方法のレクチャー。2回目</p> <p>・G9 による「くればーらじお」オンライン配信</p> <p>・G3 ミナレ学習(総合的な学習)</p> <p>・G7 による「Let's wash your hands!!」オンライン配信(資料11)</p> <p>・生徒たちによる自主的活動。コロナ感染症予防のための手洗いを呼びかける動画を製作。配信をはじめた。</p> <p>・オンライン職員会議</p> <p>7月</p> <p>・G9 による「くればーらじお」オンライン配信</p> <p>・オンライン全校児童生徒お別れ会。転出する児童生徒を送る会。生徒会役員が司会進行を行う。</p> <p>・G6 によるオンライン全校集会児童の自主的活動。オンラインでゲーム・クイズを行う。</p> <p>・G9 による「くればーらじお」オンライン配信</p> <p>・オンライン個別懇談会</p> <p>・保護者アンケート実施(3 回目) Microsoft Forms で行う。(資料12)</p> <p>・G9 による「くればーらじお」オンライン配信</p> <p>・オンライン臨時職員会議</p> <p>・オンライン終業式・・・ミュートになるなど不具合が多発。対策の必要性を痛感した。</p> <p>・ALL STAFF MEETING (オンライン) 1 学期は学校閉鎖が続く、児童生徒は一日も登校す</p>
--	--

8月	<p>ることなく、すべてオンラインでの授業であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストをオンラインで行うと公平性が担保出来ないので、定期テスト等で評価しないことにした。従って1学期の通知表は、文章形式でオンライン授業での頑張り等を評価した。 ・新派遣教員がドバイに到着 ・オンライン始業式、歓迎会 ・KHDA(ドバイ教育局)に2学期からの部分登校、学校再開を要望し、認められる。 ・各集合体の二分の一登校。隔週で交代することを決定。 ・G1・G2・G7・G8・G9 登校トライアル、G3・G4・G5・G6 オンライン授業 ・G3、大阪市立竹淵小学校とのオンライン交流。蚕の飼い方レクチャー。 ・G3・G4・G5・G6・G9 登校トライアル、G1・G2・G7・G8 オンライン授業、全校児童生徒お別れ会 ・一週間交代で、登校とオンライン授業を交互に行う ・G9 による「くればーらじお」オンラインアンケート配信 ・生徒の自主的活動。内容に関する希望のオンラインアンケートを実施
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係者コロナ陽性のため、全員オンライン授業に戻る ・G9 による「くればーらじお」オンライン配信 ・オンライン PTA 会議 ・オンライン全校児童生徒歓迎会 転入して来た児童の自己紹介、生徒会役員の司会進行、歓迎の言葉などを行う。 ・オンライン全校児童生徒お別れ会 ・G9 による「くればーらじお」オンライン配信 ・G3 岩手県立弥栄小学校とのオンライン交流 ・一部登校の再開 一週間交代で、登校とオンライン授業に戻る ・G9 による「くればーらじお」オンライン配信 ・登校中の児童生徒は教室のテレビに投影された画面で視聴。在宅オンラインの児童生徒は家庭の端末で視聴。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・G9 による「くればーらじお」オンライン配信 ・オンライン全校児童生徒歓迎会 半数学年が登校。半数の学年がオンライン授業という状況なので、全校的な集会は、オンラインで行う。登校している児童は教室から教師の端末で参加。在宅の児童は個々にオンラインで参加。 ・G9 による「くればーらじお」オンライン配信 ・オンライン G6G9個人懇談 放課後、担任と保護者が tezms のチャットのビデオ通話で懇談する。(児童生徒のアカウントを使って) ・オンライン G6G9個人懇談 ・オンライン全校児童生徒お別れ会 転出する児童生徒のあいさつ、生徒会役員の司会進行、別れの言葉などを贈る。半数の学年は学校から、半数の学年は家庭から参加。 ・長野県岩正製紙工場の糸取り口座(オンライン授業) ・G3G6 オンライン特別授業

<p>11月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・G9 による「くればーらじお」オンライン配信 ・通常登校再開 全児童生徒が登校することが可能になる。KHDA(ドバイの教育局)からは、コロナ感染症が心配で登校を見合わせる児童生徒がいた場合はオンライン授業を提供するよう指示される。帰国した児童生徒に向けてのオンライン授業を継続する。教室で行われている授業を、対象児童生徒にオンライン中継する。 ・全校児童生徒歓迎会・体育館から各クラスに中継 ・G6 特別授業オンライン ・G3 長野県岩正製紙工場、オンライン工場見学 ・G3 保護者がゲストティーチング(サミットレーディング:輸入日本食材について) ・G3 保護者がゲストティーチング(日本光電:LED の歴史と使用方法) ・学校評価アンケート実施 forms での実施 ・G3 保護者がゲストティーチング(NOTIONHOSPITAL:人工心肺について) ・G3 保護者がゲストティーチング(CANON:アフリカ販売とレーディングの動向について) ・オンライン三者面談 ・G3 保護者がゲストティーチング(いすゞ自動車:自動車の作り方と未来) ・小学部放送委員会活動 ・G3 東京都啓明小学校とのオンライン交流学习。蚕の飼育方法についての意見交換。 ・G3 保護者がゲストティーチング(伊藤忠商事:秘書の仕事と物流について)
<p>12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業」の協力校に決定した通知が届く。 ・15日に行うゲストティーチャー中東日産によるオンライン授業に備えた接続テストを行う。機器の配置、動作確認、映像・音声の届き具合を確認。授業者の音声はHDMI 接続の大型テレビから出ず、ipad からしか出ない。授業者のパワーポイントに貼り付けた動画の音声は、試行錯誤を繰り返す中で届くようになった。 ・G3 大阪市立意岐部小学校とのオンライン交流。蚕の飼育について意見交換。卵の贈呈について。 ・現地スタッフに今回の「ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業」を説明。備品購入、及び大型テレビの壁面設置の手順について確認。特に壁面に固定するため HDMI 端子へのアクセスが容易な機種を選定するよう指示。 ・学校運営理事会学校運営チームの会議で、学校長が今回の事業について説明。備品購入は学校長決済で行う。テレビ設置工事は、学校会計から支出することについて了解を取る。 ・オンライン個別懇談 ・児童生徒歓迎集会をオンラインで開催 転入して来た児童の自己紹介、生徒会役員の司会進行、歓迎の言葉などを行う。生徒会役員の一名は、日本からの参加。 ・G5 中東日産オンライン授業(資料15) ・G5 の児童が、中東日産の方々をゲストティーチャーに迎え、自動車の企画、製造、販売、アフターサービス、そして電気自動車の仕組みについて学んだ。teams の会議室にゲストティーチャーを招き、オンラインで授業をして頂く、一人の児童は、日本からオンラインで参加。 ・オンライン学習発表会:児童の日ごろの学習成果を発表する場として、「学習発表会」を行っ

た。各クラスが発表を動画で作成し、Microsoft Stream（セキュリティで保護されたビデオ サービス）で保護者に公開。

児童生徒は各教室で大型テレビ画面で互いに鑑賞し合う

- G1 音読劇「ためきの糸車」
 - G2 音読げき「お手紙」
 - G3 体育学習発表「リズムなわとび&さんかくおに」
 - G4 二分の一成人式 ～感謝の気持ちを伝えよう～
 - G5 食べて元気に ～五大栄養素ルジャー（朝食編）～
 - G6 今、私は、僕は ～自分の一歩～
- 中学部 映画「未来へ続く穴」

- ・ダンス「ロックなおざね」の発表・コンテスト
- ・体育や朝の集会活動「さわやかタイム」で練習してきたダンス「ロックなおざね」を校庭で集団演技し、動画を撮影、保護者に WEB 上で公開。
- ・「Parent's Guide Booklet COVID-19」ドバイ保健局(DHA)を全家庭にメール配信
- ・ワイヤレス HDMI 送受信機の比較テスト。MEASY 社製と DIAMOND 社製を 1 台ずつ購入、動作確認をする。MEASY 社製は 60GHZ 帯、画質は綺麗に伝達するが障害物に弱い。テレビ本体の後ろに隠れるだけで、信号が切れる。DIAMOND 社製は 5GHZ 帯、画質に劣るが障害物に強つ長距離信号が届く。その分、隣の教室との競合、混信が心配されるので、両機種を交互に教室配置する事にする。
- ・創立 40 周年記念式典(オンライン) 体育館での式典を各学級、およびオンライン児童生徒、来賓に配信。来賓からはオンラインで祝辞を頂く。(資料16, 17)
- ・終業式 体育館での式、校長のメッセージをオンラインで各学級に配信。
- ・児童生徒お別れ会。生徒会の児童の司会進行。児童生徒のあいさつを体育館から配信。
- ・大型テレビ設置準備(ホワイトボード、掲示板等取り外し、壁面塗装工事)(資料18, 19)

1月

- ・IDMI 送受信機(到着分)の設置
- ・始業式 日本に一時帰国していた児童生徒のうち、PCR 検査の結果待ちで登校を見合わせる児童生徒がいたためハイブリッドの授業を継続する。
- ・冬休み中に、児童生徒がコロナ感染症に感染したり、児童生徒の家族が感染したりしたため濃厚接触者となり行動制限されるケースがあったため、ハイブリッド授業の割合が増える。
- ・デジタル教科書のインストール
- ・スクールバス運転手の感染が判明。他のバススタッフが濃厚接触者となったため、バスの運行が出来ない事から明日の授業をオンラインで行うと通知
- ・本日より児童生徒の登校を見合わせ、1週間全面オンライン授業を行うと保護者に通知。
- ・G8ミナレ学習(日本からのオンライン授業)
- ・14 日以降新たに5名のスクールバスおよび清掃スタッフの感染が判明。28日まで全面オンライン授業を継続することを保護者に通知
- ・オンライン避難訓練 在ドバイ日本国総領事館 危機管理担当者のオンライン講義
- ・ビブリオバトル(書籍紹介スピーチコンクール)をオンラインで開催
- ・登校再開、コロナ感染症が怖くて学校に来られない児童生徒もあり、ハイブリッドでの授業を

2月	<p>継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の感染判明 ・全面オンライン授業 ・登校再開 教員のうち数名は濃厚接触者として、出勤自粛。教師が自宅より登校している児童生徒にオンライン授業を行う。(いつもとは逆のオンライン授業) ・ミナレ学習(総合的な学習の時間)の発表会 オンラインで他学年及び家庭の保護者に配信
----	--

6. 具体的な取組内容 (※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。)

2020年3月に現地政府当局より学校閉鎖の指示が出た。4月からの学校の再開の見込みが無いため、4月から日本国内待機教員も含めて、全教員によるオンライン授業を実施することを決定した。オンライン授業を実施するといっても、全職員初めての経験で戸惑う事ばかりであった。とにかく4月当初から teams でオンライン授業で新学期を開始すると決定し、職員会議や打ち合わせを teams を使って繰り返すことで、職員のスキルを高めていった。

オンライン授業が軌道に乗ってくると、児童生徒がいたずらでオンライン授業を邪魔してしまうという問題も出始め、ネットモラルやオンライン授業の約束事の指導も行った。長時間情報端末に向かう事への心配もあり、保護者アンケートで子どもたちの様子や保護者の心配・願いの把握に努めた。

オンライン授業を長期に渡り継続していく中で、初めのころは物珍しさもあり集中できていた児童生徒も、時間が経つにつれ、モニターの中の授業(先生)に集中できない事象が散見されるようになった。非常時に途切れないだけでなく、より質の高いオンライン授業。マルチメディアを駆使し、動きのある授業、視覚に訴えた授業、アクティブに学ぶ授業を目指すことの大切さを知った。

そこで目標としたことが

①非常時に途切れない「学びの保障」を行うため、マニュアル・規則を整える。非常時に必要な機器を準備する。

②オンライン授業を行う際のインターフェイスを充実させ、より実体感のある学びを実現する。

③質の高い安定した通信環境でのオンライン授業をめざす。

④ICTを活用したわかりやすい授業の推進を行う。

という4点である。

① について

3月末に「Distance Learning の手引き」(資料1)(オンライン授業のマニュアル)を発行し teams のインストールの仕方、ログインの仕方から解説する手引き作成した。5月7日には、新しく出てきた問題点にも対応した「Distance Learning の手引き第2版」(資料6)を発行した。ネットモラル(資料13)やオンライン授業中の健康問題についての保健安全指導(資料14)も行った。

本校の児童生徒は全員、家庭においてオンライン授業に参加する機器を所有している。しかし、転入児童への対応、児童生徒の所有する端末機器の不調等に備えて、「PC 整備支援事業」の援助を受けて貸し出し用タブレット端末を20台用意した。また、低学年の児童の入力を容易にするためアップルペンシルを購入した。児童生徒の登校が認められるようになって、ディスタンスの確保、各校内施設の定員の厳守が求められるため、体育館等で広く分散して間隔を取った児童生徒に見せるための高輝度プロジェクター、自立型のスクリーンを購入するなど、制約された状況を ICT 機器を使ってカバーする方法を考えた。

② について

教師がノートパソコン付属の web カメラを使って授業していると、斜め下からの角度で教師の顔が大写しされ、ホワイトボードに書いた板書も下から見上げる絵となってしまふ。teams の画面共有機能で資料を提示するとその間は、教師は音声だけになる。理想は大きく映された資料、板書の前で教師が子どもに語りかけるオンライン授業である。そこで、大型テレビを導入し、教材、資料を提示し、その画面を背景としてオンライン授業が出来るように考えた。また、タブレット端末を三脚等に固定して、オンライン授業を行うことで、児童生徒がいつも見ていたアングルでの映像を届けられる。Ipad ペンシルは、オンラインの指導者が iPad の画面を共有し、黒板代わりに使うときのチョークの役割をはたし重宝した。また、ipad をモニター出力するためのアダプターや配線に制約されることなく自由に教室のレイアウトを変えてモニター出力できるワイヤレス HDMI 送受信機を整備するなど、様々な工夫で、より快適で使いやすい環境づくりを目指した。

音声の面では、ノートパソコンのマイクでは、指向性が強いいため、教室全体の音を拾うことが困難である。ハイブリッドの授業で、教室の児童生徒の発言をオンラインで参加している児童生徒に届けるには、ア라운드スピーカーマイクが有効である。オンラインの児童生徒の発言もそこにいるかのように聞くことが出来、臨場感、実体感のある授業が実現できた。

③ について

学校からオンライン授業を行う時は、小学校1年から、中学校3年まで、そして英語の分割授業を含めると10以上のオンライン授業が同時に進行している。オンライン授業を行う上で、通信環境が安定していることは極めて重要である。しかし、本校では、通信回線が途切れる、繋がらないといったトラブルを多く経験してきた。インターネット回線の不調のため、急遽教員が自宅に帰って、自宅の回線を使ってオンライン授業をするといったこともあった。原因は、校内のトラフィックの増大も考えられるが、社会インフラ・通信会社の問題もある。少しでも問題を改善しようと、通信会社に何度も対応を促すとともに、校内では、通信回線の追加契約、スイッチングハブの増設を行った。

ウイルス対策を万全にしておく事も重要である。ウイルスに感染し校内ネットワークがダウンすると、長期間「学びの保障」が出来なくなる。そのため、学校全ての PC にウイルス対策ソフトを導入している。

④ について

本校はいち早くオンライン授業を立ち上げ、一気に ICT の活用を進めたが、それまでは教育の ICT 活用の面では遅れていたと言わざるを得ない。今回の事業で教室の電子黒板(大型テレビ)を設置、デジタル教科書を導入し、視覚に訴えた分かりやすい授業を目指した。

7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

8月に、学校が再開されたが、学校関係者の感染が確認され、2週間の学校閉鎖、その後、再開したが、KHDA(政府機関)の指示により、1週間単位で児童生徒の50%が登校、50%がオンライン授業の分散登校を行った。11月からは、希望する児童生徒全員の登校が許可されるようになったが、登校を見合わせたいという児童生徒や一時帰国した児童生徒のオンライン授業での参加も受け入れており、対面授業の児童生徒とオンラインの児童生徒が混在するハイブリッド授業を行った。

また、2021年1月になって、冬休み中に、児童生徒がコロナ感染症に感染したり、児童生徒の家族が感染したりしたため濃厚接触者となり行動制限されるケースがあったため、3学期始業式直後からハイブリッド授業の割合が増えた。さらに1月13日にはスクールバス運転手の感染が判明。他のバススタッフが濃厚接触者となったため、バスの運行が出来ない事から全面的オンライン授業へと移行した。

このように、全面オンライン授業、分散登校、通常登校、ハイブリッド授業と目まぐるしく状況が変化しても、途切れることなく授業を実施することができた。日ごろからICTを活用し、教師も児童生徒もオンライン授業の経験を多く積んできたため、「明日から登校しないで、全面オンライン授業」となっても大きな混乱がなく、翌日からのオンライン授業を始めることが出来た。また、そのような状況の中でも、ミナレ学習(総合的な学習)に積極的に取り組み、他の学校との協働学習や様々な分野のゲストティーチャーを招いてのオンライン授業に取り組んでいる。

学校生活の中で、節目となる行事的活動も、ICT機器を活用して積極的に行った。始業式、終業式はもちろん、創立40周年式典も、在ドバイ日本国総領事様にオンラインでご臨席たまわり、ご祝辞を頂いた。

児童生徒の主体的な取り組みも、特筆すべきものがある。6月には中学部3年生のが全員で「手洗いソング」の動画を製作。全児童生徒に動画を共有し、手洗いの励行を呼びかけた。同じく6月下旬には、中学部1年の生徒が別の「手洗い動画」を製作公開した。7月、小学部6年生クラスの児童は、オンラインで全校集会を開き、中でクイズやゲームを行い、全校児童生徒に楽しい時間を提供した。また、中学部3年の生徒たちは、休み時間に(くれぱーらじお)というラジオ番組を制作し、週に1度のペースでオンライン放送を始めた。始業式や、転入生歓迎式、転出生お別れの式でも、教室から、自宅から、日本国内から、児童生徒が参加し、自分たちで司会進行している。子どもたちがコロナ禍での不便な状況に負けず、主体的に活動をしている姿が見られることが一番の成果であると感じている。子ども達へのアンケート結果からも、「ビブリオバトル」「ランチ会」「ドバイタイムにみんなでもの探しゲームをしたこと」「ハロウィンパーティー」「PPAPのWASHの動画を作ったこと」などと、オンラインで授業だけでなく、学級会活動や行事、自主活動に取り組めたことが、楽しい思い出となっていた。(資料20)

取組の成果を検証するため、児童生徒及び教員にアンケート調査を行った。(資料21、22)

オンライン授業で「楽しく学習できる」で、「とてもそう思う」と答えた児童生徒は51.8%「わりとそう思う」と答えた児童生徒は28.6%。合計80.4%が肯定的な感想を持っていた。もちろん、実際に登校して、友達と共に学ぶ楽しさには遠く及ばないが、コロナ禍の制約の中でのオンライン授業で、多くの子どもたちに「学ぶ喜び」を感じてもらえることが出来たのは、職員一同の喜びである。ただ、一方で、「やりたい体育ができない、理科で実験ができない。」「少し授業が分かりにくかった。」「友達に会えなくてつまらない。」という思いを抱いている子どもたちがいる。これらの声に応えるべく、ICT機器を効果的に使って、さらに「分かりやすい授業」「楽しい授業」をめざして、研修を進めていきたい。

同じく、教師のアンケートからは、「オンライン授業で大切にしてきたこと」として、「①ホワイトボードに記入しながらの指導 ②ワンノートのコラボレーションスペースの利用 ③Teamsのホワイトボード機能の使用 ④画面共有で映像教材やワードなどに入力しながらの授業などなどその時々で最も伝わりやすいと考えられる方法を駆使してきた。」「一方的な授業にならないように、チャットやグループの活動など双方向の授業にするよう努める。」「ペアワーク/グループワークをなるべく取り入れるようにした。どうしても一人の作業になりがちなので、事前にチャンネルを複数作り会議を開いておき、そちらでペア/グループワークを行った。最近ではチームズでもブレイクアウトルームが作成できるようになったので、今はそれを使用している。」「全員の表情が見えにくいので、全員を指名して、1時間の中で最低でも一度は、顔が見えるようにした。また、1年生なので、課題を一緒に解けるよう、共有画面で書き込みながら説明をした。」などと、数多くオンライン学習を実践してきた者

ならではの知見が寄せられた。今後、職場で共有し、新しく赴任する教師にも伝えていくとともに、この報告を通して、より多くの方に参考にして頂ければ幸いである。

8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

コロナ禍は未だ収束の気配無く、来年度も今年度のように、登校、オンライン、ハイブリッドと目まぐるしく状況が変わることを想定しなければならない。どのような状況になっても、児童生徒の学びを継続できるようにしたい。今回の「ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業」で必要な機器が整備され、デジタル教科書などソフト面も充実した。それらをより効果的に使い子ども達のさらなる成長につながるように、教職員が研修を行い、学校全体の教育力をさらに高めていきたい。

課題としては、予算の裏付けである。通信費や、デジタル教科書の更新については、今後自校で手当てしなければならず、コロナ禍での対策費の支出増、児童生徒減の可能性の中で、いかに予算を確保していけるか心配である。

9. 所感

未曾有のコロナ禍の中で、子どもたちが、失うもの、経験できないもの、これをどれだけ抑えられるかという防戦一方の状況でした。しかし、文部科学省・日本人学校教育環境整備事業「コロナ禍における ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業」の実証校として採択して頂き、子どもたちに、より安定した、質の高いオンライン授業を提供する為の機器を揃え、また、通常登校の時にも大きな教育効果を発揮する、大型テレビ・デジタル教科書を導入するという、攻めの学校運営ができました。このような貴重な機会を与えて下さった事に心から感謝いたします。ありがとうございました。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。